

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自由な校風の中で「自ら考え、判断し、行動できる」心豊かな人間を育成し、「活力ある学校づくり」をめざす。

- 1 自尊感情を高め、倫理感や規範意識を育て、社会で自立できる人材の育成を図る。
- 2 多様な価値観を持つ生徒が互いを認め合い学びあうことで、「共に学び、共に育ち、共に生きる教育」を推進する。
- 3 生徒の個性を生かしきめ細やかな指導をすることで、一人ひとりの生徒の自己実現に向けて校内の体制を充実させる。

2 中期的目標

1 社会で活躍するための資質や能力の育成

(1) 「確かな学力」の育成

- ア 集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう統一した指導を継続的に行うことで、すべての生徒が学びやすい学習環境を維持する。
- イ 少人数授業や半期集中講座、習熟度別クラス編成の効果を検証し、新学習指導要領への移行を見据え、効果的な教科指導ができるよう昼夜間単位制のシステムを改善・計画する。
- ウ 検定試験の成果を修得単位に反映することで学習意欲の向上に取り組む。

(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり

- ア 入学年次に「総合的な探究の時間」で、ソーシャルスキルトレーニングや主体的に取り組む共同的な活動や自己肯定感を高める取組みの「中央高校メソッド」を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。【新規】
- イ ICT機器や視聴覚教材を利用して、教師からの一方通行的な授業ではなく、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりに努める。
- ウ 公開授業週間を設定し、教職員同士で学びあえるようにして、教職員が相互研鑽し、力量を高め、生徒の自己実現を支援していく。【新規】

2 学びに向かう環境づくりの充実

(1) 一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させ、学びに向かう環境づくりを充実させる。

- ア 「気づきシート」や「支援・配慮を要する生徒一覧」に加え、「高校生活支援カード」や「保健調査」を活用し、「教育・心理検査」を実施して、一人ひとりの教育的ニーズを把握する。
- イ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、チューター、支援委員会などと連携を図りながら、心理的な不安を抱える生徒や配慮を要する生徒が安心して過ごすことができる環境づくりおよび情報共有の推進を図る。
- ウ ユニバーサルデザインを意識した授業や教育環境の整備を推進する。【新規】

(2) 人権意識を高め、健康を保ち、生徒が学びに集中できるように支援していく。

- ア いじめの防止のためにアンケート調査などにより実態把握し、いじめ（疑いも含む）事象に対して、「いじめ防止委員会」を中心に、事象が深刻化することがないように迅速かつ適切に対応する。いじめ事象に発展しやすいSNS上のトラブルが起きないように情報モラルを育成するとともに、健康への影響を含めた情報リテラシーを育成する。加えて喫煙、飲酒や薬物乱用防止のために、正しい知識の普及や啓発を図る。【新規】
- イ 教職員の人権研修を充実させ、鋭敏な人権感覚を培い、人権に対する意識・態度・実践的な行動力などの様々な資質や能力の育成を図る。【新規】

3 自己実現の支援

(1) 生徒の進路を見据えた科目選択ができる昼夜間単位制の充実

- ア 昼夜間単位制の利点を活かして生徒の進路や興味・関心に合わせて時間割が作成できる自由度の高い時間割を開発する。【新規】
- イ 2年次からの科目選択の際、クラスのチューターが、保護者とも連携しながら、丁寧に、きめ細やかに指導する。【新規】

(2) 奨学金業務を円滑に運営し、経済的な面で安心して学校生活を送れ、進路選択ができるようにする。

(3) 望ましい勤労観や職業観を持って進路選択ができるように、きめ細かい指導をしていく。

- * 卒業時の進路未決定率（大学浪人を除く）の20%以下をめざす。（R1 18% R2 34% R3 29%）
- * 学校斡旋就職内定率について100%をめざす。（R1 100% R2 100% R3 100%）

4 活力ある学校づくり

(1) 「豊かでたくましい人間性のはぐくみ」の一環として、部・同好会、生徒会の活性化を図る。

- ア 生徒会が中心となって、広報や各種イベントの実施を通じて、部・同好会に所属する生徒数を増やす。
- イ 「あかん」を指摘するより「いいね」を増やし、自己肯定感を高める取組みである「いいね！プロジェクト」を生徒会が中心となって実施する。マナーアップするための啓発運動、あいさつ運動、地域のボランティア清掃やSDGsに関する取組みなどを実施する。

(2) 中学校との連携を深め、さらに本校の教育活動への理解を促進するための広報活動の充実を図る。

- ア 様々な課題を抱える生徒の支援に向けて、出身中学校との連携を図る。【新規】
- イ 府下唯一の「昼夜間単位制」のシステムについての理解を促進するために学校説明会を実施する。【新規】

(3) 家庭教育支援の充実のために各家庭との連携を深める。

- ア 家庭との連携を図り、保護者が相談しやすい環境を整える。
- イ 生徒の登校状況の改善、授業や特別活動への積極的な参加を促し、生徒の自己実現を支援するため、家庭連絡や懇談を通じて生徒の状況把握に努める。

(4) 安全で安心な学びの場

- ア 火災のみならず、様々な自然災害等を想定し、防災意識を高める取組みをする。
- イ 本校は地域の避難所となるので、地域と連携し、地域の防災イベントに参加する。

(5) 教職員が、心身ともに健康な状態で生徒と向き合うために、働き方改革に関する取組みをすすめる。

- ICTの活用による業務の効率化や夏季・冬季休業中に閉庁日を設定するなど休暇を取りやすい環境や、悩みを軽減する環境をつくり、教職員の心身の健康を図る。【新規】

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>※ () 内の%は学校教育診断票の肯定率である。</p> <p>【授業】 生徒は、評価の方法や基準についてよく理解したうえで (94.5%)、授業が分かりやすく (78.8%)、教員に対し質問しやすく (77.2%)、教員から努力も認められ (85.4%)、評価については納得している (89.4%)。保護者については、通知表で子どもの学力が分かりやすく表され (79.5%)、教員が適切・公平に評価している (91.7%) と認識している。 授業での教員の日々の工夫が反映した結果と言える。</p> <p>【教育相談】 生徒からは、教員は生徒の意見を聞き (88.2%)、いじめについて (80.6%)、また日常のこと (77.6%) も真摯に対応しているとの認識であり、保護者についても、教員はいじめについて (86.9%)、その他の相談 (94.2%) にも対応しているとの認識である。 教員は子どものことを理解している (85.1%) との捉えであり、教職員の常の心掛けが反映した結果である。今後、更に生徒の相談体制の充実を図っていききたい。</p> <p>【特別活動】 ホームルーム活動 (81.0%) は活発で、学年で行う校外学習も楽しく実施できた (92.0%)。生徒会活動 (87.6%) も活発で、文化祭 (86.1%)、体育祭 (82.0%) は充実した内容となった。部活動の取組みのアンケート結果 (46.0%) が極端に低い結果となった。その要因として、生徒が登録した授業を受けた後、一時的な仕事に就業するケースが多く、引き続き学校で部活動に参加しづらい状況がある。部・同好会の所属人数増加が望ましい側面もあるが、本校生徒が学校生活を送るうえで、就業も欠かせない状況がある。 命の大切さ (生徒 90.0% 保護者 80.5%) や人権 (生徒 86.8% 保護者 90.7%) について学ぶ機会を設けている。ただ環境・国際理解・福祉について (生徒 69.1% 保護者 69.2%) は、次年度計画的に拡充し、実施していく必要がある。</p> <p>【教員・学校への評価】 生徒から教員を見た結果、教員は責任をもって (89.1%)、互いに協力し (88.3%) 仕事をしている。秘密を守り (88.9%)、成績などプライバシーを守っている (93.6%)。男女を平等に扱い (88.1%)、教員自身が学校の規則を守っている (91.5%) との認識である。そして教員の指導も納得できる (81.8%) 結果となった。</p> <p>保護者の学校への評価は、学校は子どもの個人情報を守っており (93.0%)、そして学校の教育方針は分かりやすく (87.0%)、教員は子どもが間違っただけ行動をしたら厳しく指導し (89.2%)、学校の生徒指導の方針に共感できる (88.7%)。教員は将来の進路などにも適切に指導し (84.9%)、学校は保護者の願いにこたえている (87.3%) との認識である。</p> <p>概ね高評価であったが、「学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている」の保護者の肯定率が76.9%であったため、次年度は80%以上をめざし対策を講じたい。今後、80%以上で満足することなく、更なる向上を図っていききたい。</p>	<p>【第1回 (7月11日開催)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和4年度学校経営計画及び学校評価について <ul style="list-style-type: none"> 委員全員の賛成を得た。 令和4年度学校教育計画について <ul style="list-style-type: none"> これまで本校が取り組んできた内容をふまえ今年度の各分掌・教科の計画を説明し、委員全員の賛成了承を得た。 その他 <ul style="list-style-type: none"> 地域防災について委員全員の情報共有をすることができた。 <p>【第2回 (11月28日開催)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和4年度学校経営計画の進捗状況について <ul style="list-style-type: none"> 府への移管によってHPの仕様が変更になっていると思うが、以前より見づらい構成となっている。他の府立高校を参考に、わかりやすい構成にする必要がある。 学校説明会に後援会 (保護者) が協力してもよい。保護者目線で話す内容は参加者がより理解が深まると考える。 スクール・ミッション (案) について <ul style="list-style-type: none"> スクールミッションに、立地に関する内容を入れてはどうか、駅に近い学校は受験生からするとメリットが高いとの意見。 その他 <ul style="list-style-type: none"> 文化祭について <ul style="list-style-type: none"> 中央祭 (文化祭) を見学したが、広い体育館の中で子どもたちがエネルギーを一つの方向に向かわせるような取組みをしていることに感動したとの意見。 <p>【第3回 (3月6日開催)】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「令和4年度学校経営計画及び学校評価」について <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度について委員全員の質問・意見を聴取した結果、取組み内容・自己評価については了承を得られた。 学校運営協議会委員から、現在の地域防災における地域と学校の連携の取組みについての補足説明がなされた。 「令和5年度学校経営計画及び学校評価」について <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度について委員全員から、今年度の取組みを継続するとともに発展させるようにとの意見が出された。 配慮が必要な生徒への取組みをより進めるよう、意見が出された。 その他 <ul style="list-style-type: none"> 今年度内の学校行事予定の報告

府立中央高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 3年度値]	自己評価
1 「社会で活躍するための資質や能力の育成」	(1) 「確かな学力の育成」	(1) ア 集団生活における規範意識を高め、ルールやマナーを守って学校生活を送れるよう統一した指導を継続的に行うことで、すべての生徒が学びやすい学習環境を維持する。そのために本校独自の制度やルールに関して、説明会や連絡会などたびたび実施し、教員同士確認しあえる機会を設ける。 イ 少人数授業や半期集中講座、習熟度別クラス編成の効果を検証し、新学習指導要領への移行を見据え、効果的な教科指導ができるよう昼夜間単位制のシステムを改善・計画する。 ウ 検定試験の成果を修得単位に反映することで学習意欲の向上に取り組む。	(1) ア 学校教育自己診断（生徒）の「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている」の肯定率を75%以上とする。 イ 学校教育自己診断より ・（生徒）「授業は、わかりやすく、楽しい」の肯定率を75%以上とする。 ・（教職員）「この学校では、少人数指導を取り入れるなど、指導方法の工夫・改善に努めている」の肯定率75%以上とする。 ・（教職員）「生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している」の肯定率を75%以上とする。 ウ 検定資格取得による増単位認定者20名以上を維持する。[25名]	肯定率が76.6%で、目標は達成された。次年度も基本的習慣を身につけさせていきたい。(○) ・生徒の肯定率が78.8%であった。教職員の肯定率はそれぞれ94.8%、96.6%であった。 ・加えて（生徒）「学習の評価については納得できる」の肯定率が89.4%、（生徒）学校教育診断にて「評価の仕方や基準について、事前に示されている」が94.5%で新学習指導要領の取組みが進んでいる。(○) ・43名となった。今後も学習意欲の向上を図っていきたい。(○)
	(2) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり	(2) ア 入学年次に「総合的な探究の時間」で、ソーシャルスキルトレーニングや主体的に取り組む協働的な活動や自己肯定感を高める取組みの「中央高校メソッド」を実施し、主体的・対話的で深い学びの実現をめざす。 イ ICT機器や視聴覚教材を利用して、教師からの一方通行的な授業ではなく、主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりに努める。 ウ 公開授業週間を年2回設定し、教職員同士で学びあえるようにして、教職員が相互研鑽し、力量を高め、生徒の自己実現を支援していく。	(2) ア 学校教育自己診断より ・（生徒）「授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある」の肯定率を75%以上とする。 ・（教職員）「この学校では、創意工夫を生かした総合的な探究の時間を実施している」の肯定率を80%以上とする。 イ 学校教育自己診断より ・（生徒）「教え方に工夫している先生が多い」の肯定率を70%以上とする。 ・（教職員）「コンピュータなどのICT機器が授業などで活用されている」の肯定率を75%以上とする。 ・（教職員）「グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている」の肯定率を80%以上とする。 ウ 一人2回以上の授業見学する割合を75%以上とする。[77%] 学校教育自己診断より ・（生徒）「他の先生が授業を見学に来ることがある」の肯定率を70%以上とする。 ・（教職員）「教員の間で授業方法等について検討する機会を積極的に持っている」の肯定率を70%以上とする。	・生徒の肯定率72.5%とやや下回ったものの、（生徒）「命の大切さ」や「人権について学ぶ機会がある」の肯定率がそれぞれ90.0%、86.8%と高かった。(○) ・教職員の肯定率は93.0%であった(○) ・肯定率はそれぞれ、（生徒）72.5%、（教員）91.4%、77.2%であった。グループ学習は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、頻度を控えたことが影響していると考えられるが、今後は取組みを推進させたい。(△) ・授業見学の割合が90.1%で生徒の肯定率が91.2%であり、大きく上回った。ただ教員の肯定率が69.7%であった。今後も教員相互で研鑽する機会を設け、生徒の自己実現に向けた支援を充実させたい。(○)

府立中央高等学校

<p>2 「学 びに向 かう環 境づく りの充 実」</p>	<p>(1) 一人ひとりの教育的 ニーズに応じた支援 を充実させ、学びに 向かう環境づくりの 充実</p> <p>(2) 人権意識を高め、健 康を保ち、生徒が学 びに集中できるよう な支援</p>	<p>(1) ア 前後期での「気づきシート」や「支 援・配慮を要する生徒一覧」の更新 に加え、「高校生活支援カード」や 「保健調査」を活用し、「教育・心 理検査」を実施して、一人ひとりの 教育的ニーズを把握する。</p> <p>イ スクールカウンセラーやスクール ソーシャルワーカー、チューター、 支援委員会などと連携を図りなが ら、心理的な不安を抱える生徒や 配慮を要する生徒が安心して過ご すことができる環境づくりおよび 情報共有の推進を図る。ケース会 議を10回以上開く。</p> <p>ウ ユニバーサルデザインを意識した 授業や教育環境の整備を推進す る。</p> <p>(2) ア いじめの防止のためにアンケート 調査などにより実態把握し、いじ め(疑いも含む)事象に対して、 「いじめ防止委員会」を中心に、 事象が深刻化することがないよう に迅速かつ適切に対応する。いじ め事象に発展しやすいSNS上の トラブルが起きないように情報モ ラルを育成するとともに、健康へ の影響を含めた情報リテラシーを 育成する。加えて喫煙、飲酒や薬 物乱用防止のために、正しい知識 の普及や啓発を図る。</p> <p>イ 教職員の人権研修を充実させ、鋭 敏な人権感覚を培い、人権に対す る意識・態度・実践的な行動力など の様々な資質や能力の育成を図 る。</p>	<p>(1) ア 「高校生活支援カード」、「保健調査」の回収率 100%をめざす。これらの調査を集約し、個別の支 援方針を検討する。</p> <p>イ 学校教育自己診断より ・(生徒)「担任の先生以外にも保健室や相談室などで、 気軽に相談することができる先生がいる」の肯定 率を70%以上とする。 ・(教職員)「教育相談体制が整備されており、生徒は 学級担任以外の教職員とも相談することができ る」の肯定率を75%以上とする。</p> <p>ウ 学校教育自己診断(教職員)の「この学校では、 到達度の低い生徒に対する学習指導について、全 校的課題として取り組んでいる」の肯定率を80% 以上とする。</p> <p>(2) ア ・いじめアンケートを年3回実施する。[3回] ・生徒向けの講習会を2回以上実施する。[2回] ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みや相談に親身に なって応じてくれる先生が多い」の肯定率を75%以 上とする。</p> <p>イ ・教職員向けの人権研修を1回以上実施する。[1回] 学校教育自己診断より ・(教職員)「教育活動において、生徒が命の大切さや 社会のルールについて学ぶ機会を作るように配慮 している」の肯定率を75%以上とする。 ・(教職員)「いじめ(疑いも含む)が起こった際の体 制が整っており、迅速に対応することができてい る」の肯定率を80%以上とする。 ・(教職員)この学校では情報リテラシーや情報モラル を高める教育に取り組んでいる」の肯定率を75% 以上とする。</p>	<p>・それぞれ100%であった。加えて、 「気づきシート」や「教育・心理検 査」を実施して、一人ひとりの教育 的ニーズの把握を常に更新し、共有 するようにする。(○)</p> <p>・生徒の肯定率が62.7%で目標を下 回った。担任(本校ではチューター) が相談相手として確立している と言える。加えて、居場所カフェやS CやSSWの活用について、生徒に も周知していきたい。チューターや 保健室の先生などから情報共有を した結果、ケース会議を開催する案 件が多く、SCは53回、SSWは 8回開いた(11月)。教職員の肯定 率は84.5%である。(△)</p> <p>・教職員の肯定率は80.4%である。独 自の教職員向けアンケートでも、8 割以上、ユニバーサルデザイン化の 取組みを推進している。(○)</p> <p>・いじめアンケート1回、安全安心ア ンケート2回、合計3回実施すると ともに、生徒からの聞き取りも丁寧 に行い、迅速かつ適切に対応してい る。(○) ・全年次対象の講習会は、情報モラ ル、薬物乱用、犯罪被害について3 回実施した。また各年次でそれぞれ 同和問題、性被害など人権学習を実 施した。(○) ・生徒の肯定率が81.4%で、今後も肯 定率を伸ばしていきたい。(○)</p> <p>・同和問題について人権研修を実施 した。日程を確保して、教職員向け の研修を増やしていきたい。(○)</p> <p>・教職員の肯定率は、それぞれ、 88.1%、93.2%、79.0%であった。 生徒対象の人権学習も、教職員の 人権感覚を養っていることに貢献 している。ただ情報モラルについ ては、生徒がスマートフォンを購 入して間もない年度当初に実施 したい。(○)</p>
--	--	--	---	---

府立中央高等学校

<p>3 「自己実現の支援」</p>	<p>(1) 生徒の進路を見据えた科目選択できる昼夜間単位制の充実</p> <p>(2) 奨学金業務の円滑化</p> <p>(3) 望ましい勤労観や職業観の育成</p>	<p>(1) ア 昼夜間単位制の利点を活かして生徒の進路や興味・関心に合わせた時間割が作成できる自由度の高い時間割を開発する。</p> <p>イ 2年次からの科目選択の際、クラスのチューターが、保護者と連携しながら、丁寧に、きめ細やかに指導する。履修登録ガイダンスを年2回、個別ガイダンスを年2回実施する。</p> <p>(2) 奨学金制度について周知をし、わかりやすく、きめ細やかに指導する。説明会を年2回実施し、生徒に周知する。</p> <p>(3) 将来の進路選択ができよう、ハローワークや大学・専門学校等と連携して、きめ細かい指導をしていく。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断（生徒）の「選択教科の時間は工夫されていて、自分の学びたい事柄を選べる」の肯定率を75%以上とする。</p> <p>イ 学校教育自己診断（生徒）の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率を70%以上とする。</p> <p>(2) ・学校教育自己診断（生徒）の「学校は、奨学金制度についての情報を知らせてくれる」の肯定率を70%以上とする。</p> <p>(3) ・進路について考える講習会や説明会を年3回実施する。[3回] ・学校教育自己診断（生徒）の「学校は、進路についての情報を知らせてくれる」の肯定率を70%以上とする。</p>	<p>・生徒の肯定率は81.4%であった。新旧教育課程の移行期間であるが、しっかりと選択の幅を確保していきたい。(○)</p> <p>・生徒の肯定率は82.7%であった。履修登録ガイダンス3回を、個別のガイダンスを2回実施した。(○)</p> <p>・生徒の肯定率は87.3%であった。チューターを通じて、説明会(4回実施)があることを生徒に周知し、きめ細やかに指導することができた。(◎)</p> <p>・進路に関する説明会を6回実施した。生徒の肯定率は83.3%であった。(◎)</p>
<p>4 「活力ある学校づくり」</p>	<p>(1) 「豊かでたくましい人間性のはぐくみ」</p> <p>(2) 中学校との連携と広報活動</p> <p>(3) 「家庭教育支援の充実」</p> <p>(4) 「安全で安心な学びの場づくり」</p>	<p>(1) ア 部・同好会の活性化</p> <p>イ 生徒会が中心となって「いいね！プロジェクト」(マナーアップするための啓発運動、あいさつ運動、地域のボランティア清掃やSDGsに関する取組みなど)を実施する。</p> <p>(2) ア 在籍生徒の母校を中心に中学校訪問を実施し、中学校と連携を図る。</p> <p>イ 中学校の教職員や保護者・生徒に向け、本校の教育活動の理解を促進するために学校説明会を実施する。</p> <p>(3) 家庭との連携を図り、保護者が相談しやすい環境を整える。年1回は3者懇談を実施し情報交換に努める。</p> <p>(4) ア 火災のみならず、様々な自然災害等を想定し、防災意識を高める取組みをする。</p> <p>イ 地域の避難所であるため、地域と連携する。</p>	<p>(1) ア 広報やイベントを実施し、部・同好会に所属する生徒数を前年度より増やす。[121名]</p> <p>イ 学校教育自己診断（生徒）の「生徒会活動は活発である」の肯定率を70%以上とする。</p> <p>(2) ア 中学校訪問を150校以上実施する。[183校]</p> <p>イ 学校説明会を年4回以上実施する。[3回]</p> <p>(3) ・家庭訪問を含め、懇談を100%実施する。 ・学校教育自己診断（保護者）の、「学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる」の肯定率を70%以上とする。 ・学校教育自己診断（保護者）の、「子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる」の肯定率を70%以上とする。 ・学校教育自己診断（保護者）の「学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている」の肯定率を70%以上とする。</p> <p>(4) ア 消防署と連携した避難訓練と防災教育を実施する。 ・学校教育自己診断（生徒）の「学校で事件・地震や火災などが起こった場合、どう行動したらよいか、知らされている」の肯定率を70%以上とする。</p> <p>イ 地域の避難所実習を実施し、また地域の防災イベントに参加する。</p>	<p>・122名が部・同好会に所属。次年度も維持、向上を図っていきたい。(○)</p> <p>・生徒の肯定率が82.7%で、生徒会を中心に活動し、また生徒会以外の生徒も生徒会に協力的な態度である。(○)</p> <p>・183校(R5.1.17現在)訪問を実施し、連携を図ることができた。(○)</p> <p>・中学校教員対象学校説明会1回、保護者・生徒対象の説明会4回、計5回実施した。前年比から参加者が1.4倍と大幅に増加し、本校の取組みの理解が広まった。(◎)</p> <p>・家庭訪問を含め、懇談は100%できた。保護者の肯定率は、それぞれ94.2%、83.6%、76.0%であった。懇談のみならず、こまめに電話連絡をした結果が成果として表れている。(○)</p> <p>・避難訓練と防災訓練を実施し、生徒も真摯に取り組み、肯定率は84.0%であった。防災意識が高まる取組みであった。(◎)</p> <p>・地域防災の拠点として、避難所実習を実施し、地域の防災行事、防災力向上フォーラムに参加し、連携を深めることができた。(○)</p>

府立中央高等学校

	<p>(5) 「働き方改革」</p>	<p>(5) ICTの活用による業務の効率化や夏季・冬季休業中に学校閉庁日を設定するなど休暇を取りやすい環境や、悩みを軽減する環境をつくり、教職員の心身の健康を図る。</p>	<p>(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校等時間を超える教職員を5%以内にする。[0%] ・ストレスチェックの総合(健康リスク)の評価を100にする。 ・学校教育自己診断(教職員)の、「日々の教育活動における問題意識や悩みにつて気軽に相談しあえるような職場の人間関係ができてい」の肯定率を70%以上とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間外在校時間1月45時間を超えた教職員は、7%(11月まで)で、目標の達成はできなかった。(△) <p>移管に伴うシステムの変更や新教育課程への対応、1人1台端末の導入、教育相談の充実など大きな変更が相次いだためと推測される。ストレスチェックの総合の評価は96であり、ストレスの度合いが平均を下回り、良好な状況である。教職員の肯定率は78.3%であり、職場環境として、良好であると言える。(○)</p>
--	------------------------	---	---	---